



2023年11月 1日

日本鉄道労働組合連合会

## 【第16回女性役員意見交換会】

# 第4次男女平等参画行動目標達成にむけて 各単組の女性役員が意見交換

JR連合は10月27日、JR東海ユニオン東京本部の会議室において、「第16回女性役員意見交換会」を開催した。荻山市朗会長、相良夏樹組織局長、吉田春菜執行委員のほか5単組13人の女性役員等が参画し、さらに日韓の鉄道産業の女性の働き方について研究する立教大学経済学部の朴峻喜助教も出席した。



挨拶をする朴助教

## 女性組合役員が増えないという悩みに終止符を打ちたい！



意見交換会の様子

JR連合が策定した「第4次男女平等参画推進行動目標」の達成に向け、各単組では継続的に各級機関で女性役員を選出し、それぞれの組合員比率に応じた女性役員を選出することが求められている。しかし、JR連合では未だ女性組合員が少ない等の理由から、女性役員の選出には一定のハードルがあり、当日はあらためてその課題解決に向けた方策について意見交換を行った。そのような中、一つの対策として、三宅実花子JR西労組青年・女性委員会副委員長からは、女性三役が1名体制であったところを2名に増やし、就任時期をずらすことで経験のある役員が新人役員を教育することができる体制を自組織で整えたことが報告された。また、根本的に男性に比べてそもそも“女性社員”が少ないことも女性役員選出が難しい要因になっていることは確かであり、各労使において、各系統で偏りのない採用を求めていく必要がある旨事務局からも提起した。

さらに、「今の就労環境に慣れてしまっているが、現行のルールは今の時代に合っているか疑問」「そうした見直しが採用の魅力向上に繋がる」「女性ならではの課題は女性が声を上げなくてはならない」といった意見も参加者から出された。具体的には、「各社の化粧や髪型の基準にバラつきがある」「泊り勤務時の睡眠時間や食事時間は、随分昔に算出された基準が今も適用されている」との指摘があり、朴助教からは「他産業では労働時間等を時代に合わせて働きやすく変えている産業もある」とのアドバイスがなされた。

## 現行の勤務ダイヤの基準では、満足な準備ができない!?

最後に現行ルールについて、時代の価値観にも照らしながら、まずは聖域なく議論していくことも必要であり、こうしたことに組合員が関わることで役員のなり手不足解消にも繋がるのではないかとすることを相互に確認し、意見交換会は終了した。



当日の参加メンバー

最後に現行ルールについて、時代の価値観にも照らしながら、まずは聖域なく議論していくことも必要であり、こうしたことに組合員が関わることで役員のなり手不足解消にも繋がるのではないかとすることを相互に確認し、意見交換会は終了した。